

# 2018年3月期 決算概要 & 中期経営計画ローリング

2018年5月22日  
フクダ電子株式会社



2018年3月期 決算概要 & 中期経営計画ローリングについてご説明します。

- 2018年3月期 決算概要
- 2019年3月期 業績予想
- 中期経営計画
- 中期業績目標
- 株主還元方針



1

本日の内容となります。

- 2018年3月期 決算概要
- 2019年3月期 業績予想
- 中期経営計画
- 中期業績目標
- 株主還元方針

# 2018年3月期 決算概要

2018年3月期 決算概要となります。

### ■ 業績は過去最高

昨年度のコーリン買収も寄与し、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益はいずれも過去最高

### ■ 基盤となる国内事業の強化

電子部門、ライフテック部門、コーリンいずれも順調に推移

### ■ 在宅医療分野における協業

総合メディカル、芙蓉開発との事業提携

### ■ 継続した海外事業再編、強化に向けた取組み

不採算代理店の見直し  
海外拠点の集約

2018年3月期 決算サマリーです。

コーリン買収も寄与し、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益はいずれも過去最高となりました。

基盤となる国内事業の強化に取り組み、電子部門、ライフテック部門、コーリンいずれも順調に推移しました。

在宅医療分野における協業として、総合メディカル、芙蓉開発と事業提携をしております。

海外事業再編、強化に向けた取組みとしましては、昨年度より継続して不採算代理店の見直しや海外拠点集約を行っております。

## 2018年3月期 決算概要



| 単位：億円               | 2017.03<br>(16年度) | 2018.03<br>(17年度) | 増減額 | 増減率   |
|---------------------|-------------------|-------------------|-----|-------|
| 売上高                 | 1,217             | 1,288             | +71 | +5.9% |
| 営業利益                | 120               | 123               | +3  | +2.3% |
| 経常利益                | 122               | 127               | +5  | +4.2% |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 87                | 93                | +5  | +6.2% |

4

当社の2018年3月期の連結業績概要です。

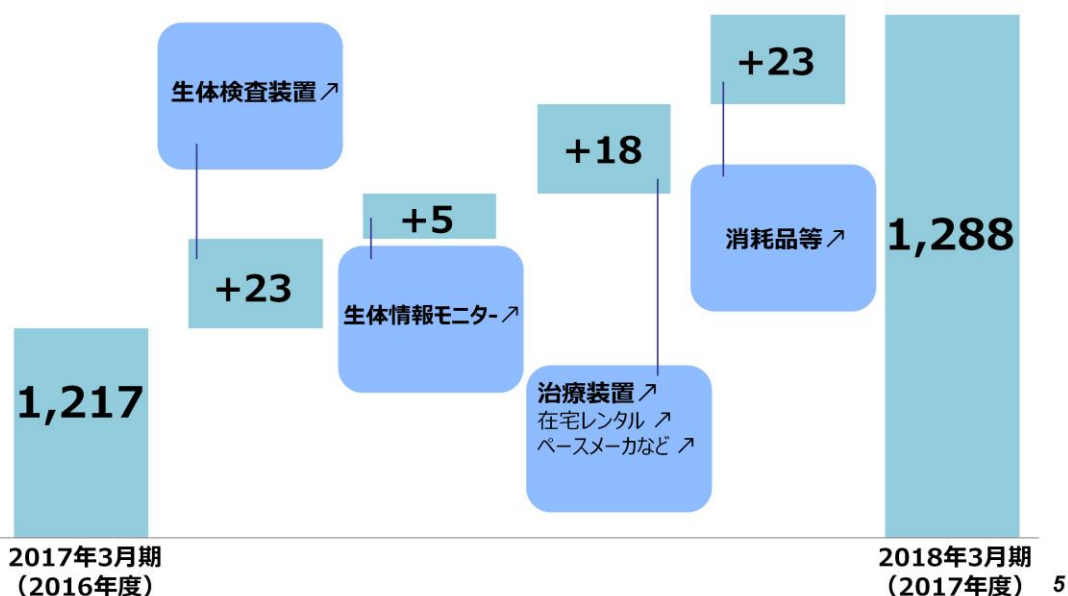
当連結会計年度におけるわが国経済は緩やかに拡大しているものの、海外経済における不確実性は高く、先行きへの不安も依然残っております。

医療機器業界においては、平成30年度診療報酬は全体としてマイナス改定となり、医療機関には引き続き効果的・効率的で質の高い医療の提供が求められております。

このような環境の中、当連結会計年度の連結売上高は1,288億83百万円（前年同期比5.9%増）となりました。利益につきましては、連結営業利益は123億34百万円（前年同期比2.3%増）、連結経常利益は127億13百万円（前年同期比4.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は93億20百万円（前年同期比6.2%増）となりました。

## 売上高の増減内訳

単位：億円



売上高の増減内訳になります。

生体検査装置部門の連結売上高は前年同期比+23億円の増加となりました。

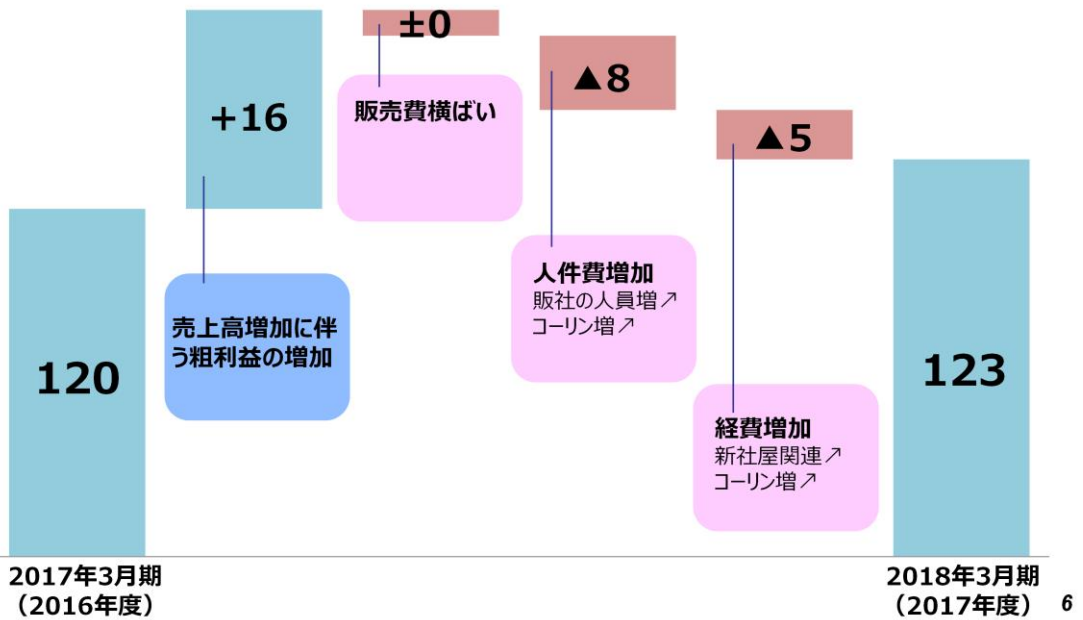
生体情報モニター部門の連結売上高は前年同期比+5億円の増加となりました。

治療装置部門の連結売上高は前年同期比+18億円の増加となりました。

消耗品等部門の連結売上高は前年同期比+23億円の増加となりました。

## 営業利益の増減内訳

単位：億円



営業利益の増減内訳になります。

2017年度の営業利益は123億円となりました。

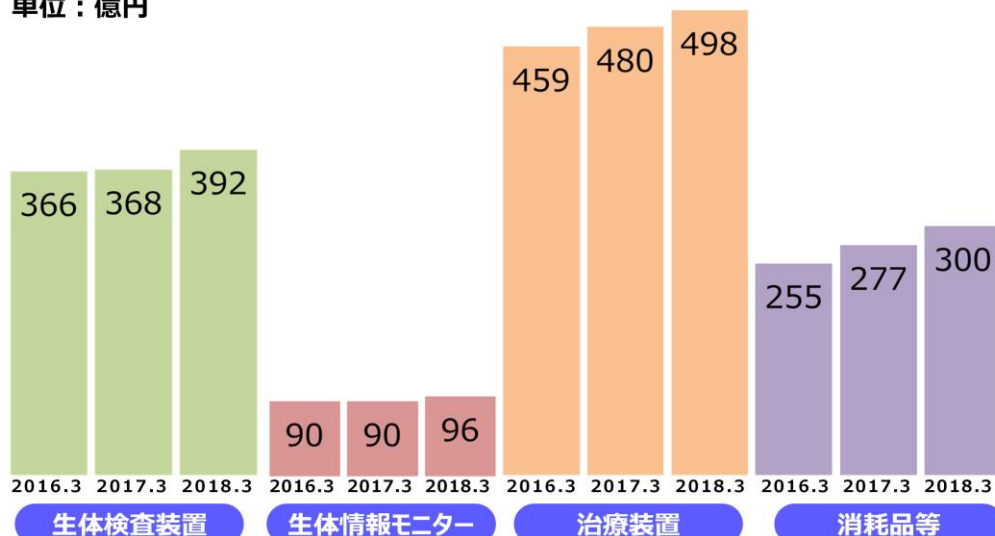
売上高増加に伴う粗利益の増加が+16億円となっております。

販管費におきましては、販売費は横ばいとなっておりますが、人件費が+8億円増加しております。

また新社屋関連費用、コーリンの費用の増加により、経費が+5億円増加しております。

## セグメント別 売上高推移

単位：億円



**治療装置は、在宅医療向けレンタル事業、ペースメーカーなどの  
売上が伸張し、増収となる**

7

セグメント別の売上高推移になります。

生体検査装置部門は、フクダコーリン(株)が連結に加わったこと等により連結売上高は392億54百万円（前年同期比6.4%増）となりました。

生体情報モニター部門の連結売上高は96億64百万円（前年同期比6.4%増）となりました。

治療装置部門は、ペースメーカー関連製品と在宅医療向けレンタル事業の売上は伸張し、連結売上高は498億84百万円（前年同期比3.8%増）となりました。

消耗品等部門は、記録紙、ディスプレイ電極や上記各部門の器械装置に使用する消耗品や修理、保守を含みます。

消耗品等部門の連結売上高は300億79百万円（前年同期比8.5%増）となりました。



## 為替変動の業績への影響

| 通貨    |       | 2017.03<br>(16年度) | 2018.03<br>(17年度) | 2019.03<br>(18年度) |
|-------|-------|-------------------|-------------------|-------------------|
| US \$ | 実勢レート | 109円              | 111円              | -                 |
|       | 社内レート | 120円              | 115円              | 115円              |
| ユーロ€  | 実勢レート | 120円              | 129円              | -                 |
|       | 社内レート | 130円              | 120円              | 135円              |

### 為替感応度（1円円高の影響）

US \$ → 1百万円のプラス

ユーロ€ → 6百万円のプラス

為替変動の業績への影響については、US \$ が1円変動した場合は約1百万円、ユーロ€が1円変動した場合は約6百万円の影響がございます。なお、円高に推移した場合、当社は輸入超過のため業績への影響はプラスになっています。

社内レートにつきましては、2019年3月期はUS \$ を115円、ユーロ€を135円で設定しております。

## 2019年3月期 業績予想



| 単位：億円               | 2018.03<br>(17年度) | 2019.03<br>(18年度) | 増減額 | 増減率   |
|---------------------|-------------------|-------------------|-----|-------|
| 売上高                 | 1,288             | 1,300             | +11 | +0.9% |
| 営業利益                | 123               | 124               | +1  | +0.5% |
| 経常利益                | 127               | 128               | +1  | +0.7% |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 93                | 92                | -1  | -1.3% |
| 設備投資 (CFベース)        | 78                | 114               | +35 |       |
| 減価償却費 (CFベース)       | 74                | 82                | +7  |       |
| 研究開発費               | 25                | 40                | +14 |       |

9

2019年3月期 業績予想となります。

2019年3月期の売上高は前年同期比+0.9%増の1,300億円、営業利益は+0.5%増の124億円、経常利益は+0.7%増の128億円、親会社株主に帰属する当期純利益は▲1.3%減の92億円を見込んでおります。

なお、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、2017年度に子会社で法人事業税の還付金があったため、この要因を除くと増収増益を見込んでおります。

2019年3月期の設備投資 (CFベース) は前年同期比+35億円増の114億円、減価償却費 (CFベース) は+7億円増の82億円、研究開発費は+14億円増の40億円を見込んでおります。

設備投資につきましては、新社屋建設に伴う費用を約26億円見込んでおります。

# 中期経営計画

中期経営計画のローリングになります。

### ■ 地域医療構想（ビジョン）の策定・具体化

- ・2025年の医療需要、目指すべき医療提供体制（必要病床数等）と、それを実現するための施策

### ■ 診療報酬改定

- ・効率的かつ質の高い医療提供体制の構築
- ・地域包括ケアシステムの構築

### ■ 医療分野におけるICT化の流れ

- ・ネットワーク化による関係者の情報共有とデータの利活用

### ■ 消費税率の引き上げ

- ・2019年10月（予定） 8%→10%

当社の経営を取り巻く外部環境としては、少子高齢化に伴う社会保障制度改革やマクロ経済の動向などが挙げられます。

2025年の医療需要を見据えて、各都道府県において、あるべき医療提供体制の実現のための地域医療構想（ビジョン）の策定が実施されております。

本年4月の診療報酬改定においても、「効率的かつ質の高い医療提供体制の構築」や「地域包括ケアシステムの構築」を目指した内容となっております。

さらには、医療分野においてもネットワーク化による関係者の情報共有とデータの利活用といったICT化の流れが押し寄せております。

消費税率の引き上げの影響につきましては、2019年10月に8%から10%への引き上げが予定されています。

### 経営理念

**社会的使命に徹し、ME機器の開発を通じて、  
医学の進歩に寄与する**

### 経営基本方針

**安全・安心・快適を基軸とした「お客様に信頼される企業」  
となり、予防・検査～治療～経過観察・リハビリ～在宅・介護  
まで 地域医療を支える製品・サービスをご提供**

12

当社は「社会的使命に徹し、ME機器の開発を通じて、医学の進歩に寄与する」という経営理念の下、医用電子機器メーカーとして、安全・安心・快適を基軸とした「お客様に信頼される企業」となり、予防・検査～治療～経過観察・リハビリ～在宅・介護まで、地域医療を支える製品・サービスをご提供することを経営の基本方針として掲げております。

**お客様第一主義を基軸に、新たな価値を生み出すと共に、グローバル体制の再編・強化により、さらなる成長を目指す**

### 事業展開

- ・お客様軸での事業拡大
- ・グループの特徴を活かした事業展開

### 製品力

- ・開発力の強化
- ・新たな価値の創出

### 販売体制

- ・グループ全体の経営効率化
- ・電子、ライフテック、コーリンの協業

13

当社は、経営環境の変化を踏まえ、経営理念、経営基本方針の下、「お客様第一主義を基軸に、新たな価値を生み出すと共に、グローバル体制の再編・強化により、さらなる成長を目指す」

の中期経営ビジョンを、「事業展開」「製品力」「販売体制」の3つのテーマで実現して参ります。

特に、販売体制においては、グループの特徴を活かした、国内電子、ライフテック、コーリンの協業により、さらなる成長を目指して参ります。

予防・検査 → 治療 → 経過観察・リハビリ → 在宅・介護  
 一貫した医療環境を提供



地域医療を支えるビジネスモデル

具体的な事業展開としては、従来の予防・検査→治療→経過観察・リハビリ→在宅に加え、介護分野へも領域を広げ、地域医療を支える一貫した当社独自のビジネスモデルにより、医療機関などにおける効率的な医療サービス実現を支援してまいります。

特にICT技術の活用することによって、救急、病院、診療所、在宅・介護の連携を深めると共に、一昨年度よりグループ会社となったフクダコーリン社によるオペ室へのアプローチの他、オムロンヘルスケア社との提携により、ヘルスケア分野における事業展開も推進して参ります。



15

当社の事業展開を、左から予防・検査、治療、経過観察・リハビリ、在宅・介護の領域の順で概観しております。

予防・検査分野では、心電計・ホルタや血圧脈波検査装置、心臓カテーテル用検査装置、超音波画像診断装置、脳波計などの品揃えがございます。

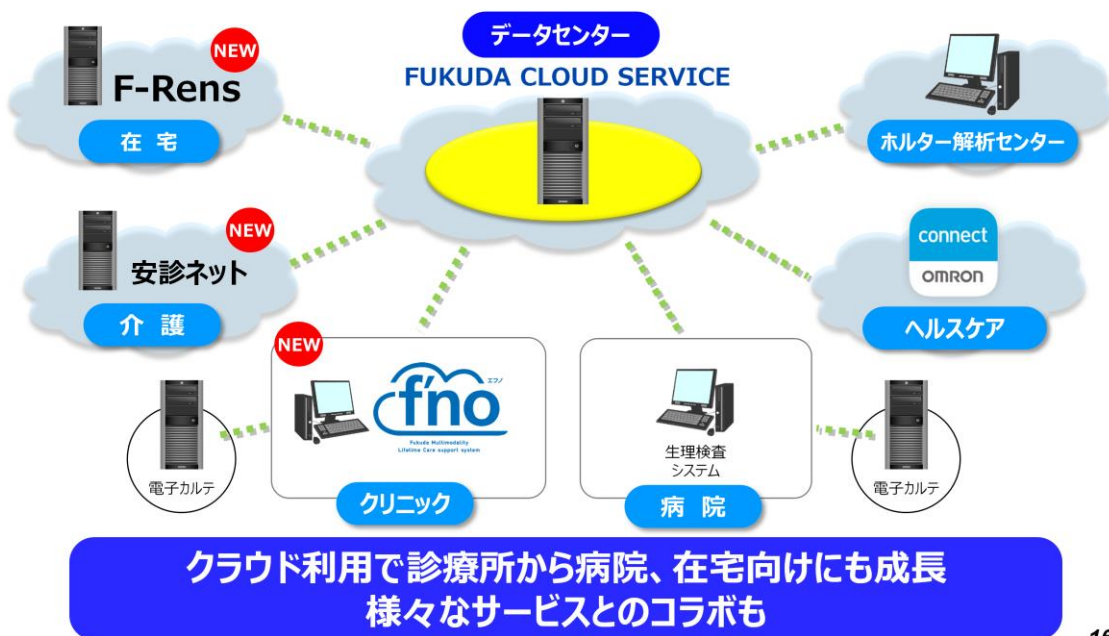
治療分野においては、PTCAカテーテル、ペースメーカ、AED、人工呼吸器、麻酔システムなどを取り扱っております。

経過観察・リハビリ分野では、生体情報モニタやテレメータ送信機、ホルタ、心臓運動負荷モニタリングシステム、フクダコーリンのスポットチェックモニタなどを取り扱っております。

在宅・介護分野においては、酸素濃縮装置やパルスオキシメータ、在宅用人工呼吸器や睡眠時無呼吸症候群の検査・治療で使用する睡眠評価装置、持続的自動気道陽圧ユニットなどの製品に加え、介護分野において新たに安診ネットを取り扱っております。

さらに、この一貫した製品・サービスをICTで統合することができる、フクダクラウドサービスのご提供を進めて参ります。





フクダクラウドサービスとは、クラウド上のデータセンターを利用し、外部のクラウドとも連動しながら、診療所から病院、在宅などの各種データを集約できる仕組みです。

既に実現できているサービスとしては、クリニック向けのf'no（エフノ）、在宅医療向けのF-Rens（フレンズ）、介護分野の安診ネットなどがございます。

また将来的には、新たなクラウド利用のホルター解析センターや、ヘルスケア分野のオムロンヘルスケア社のオムロンコネクトなどとも連携して参ります。

## クラウドを利用した かかりつけ医機能 支援

クリニック

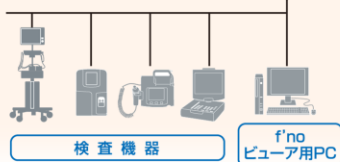
お客様のデータや情報がインターネット上に  
出ない閉域網で、安全・安心な通信を提供



検査データ  
一元管理

- 検査結果の登録や管理、  
所見・レポート記録・閲覧
- ヘルスケア情報も同時閲覧可能
- データをクラウド側にバックアップ
- 最新ソフトに自動アップデート

システム構成例



## 閉域網を利用したセキュアなネットワーク

17

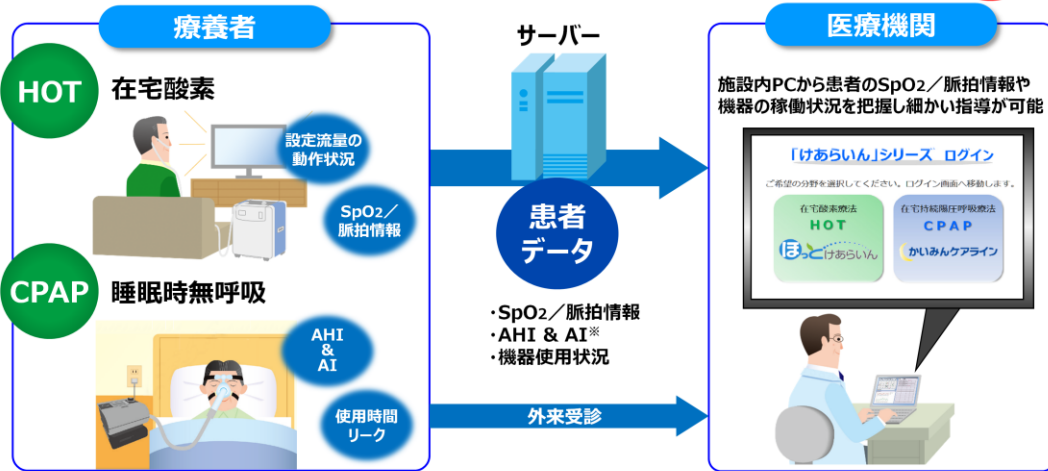
クラウドを利用したデータマネジメントシステムf'no（エフノ）は、クリニック向けサービスとして新たに販売を開始致します。

大きな特徴の一つが、インターネットを経由しない閉域網を利用して通信するため、高いセキュリティを確保できている点です。

また、検査結果や所見・レポート、ヘルスケア情報などを一元管理でき、クラウド側での自動バックアップや、ソフトの自動アップデートなどを実現しています。

IoTを利用したHOT・CPAPの遠隔モニタリング

在宅



クラウド利用によるデータ管理でより質の高い医療を提供

※ AHI & AI : 1時間あたりの無呼吸および低呼吸の数 (AHI) および1時間あたりの無呼吸の数 (AI)

18

在宅向けのクラウドサービスとしては、IoTを利用したHOT・CPAPの遠隔モニタリングサービスF-Rens (フレンズ) をご提供しています。

従来からご提供していた在宅酸素分野における、SpO<sub>2</sub>、脈拍、機器の使用状況のデータの他、睡眠時無呼吸分野においても、AHI & AI、機器情報を医療機関にて遠隔モニタリングできる仕組みとなっています。

## AIがバイタル情報等を分析、健康異常を早期発見

介護



テーラーメイドの異常検出で病気の重篤化を予防

19

介護分野においては「安診ネット」を新たにご提供しています。  
 介護施設などで登録されたバイタル、症状、既往歴などの情報を基に、AIがデータを解析、異常を検知してアラートを出すシステムです。  
 バイタル測定には、スポットチェックモニタを使用します。  
 患者さん一人ひとりの状態に合わせて、テーラーメイドで異常検出を行うことで、病気の重篤化を予防します。  
 将来的には、f'no（エフノ）と連携し同じ画面の中で、安診ネットのデータをそのまま閲覧できるようになります。

# 総合メディカルとの事業提携

### 1. 在宅医療分野における協業

(例1) 睡眠時無呼吸症候群関連事業と薬局事業の連携

→調剤薬局でSAS治療機器の交換・受取サービスを提供

(例2) シリンジポンプ事業における連携

→フクダ電子在宅医療機器利用者へのシリンジポンプレンタル

### 2. 在宅医療及び薬局における医療ICT分野の協業

(例1) フクダ電子の医療ICTを活用した地域医療連携支援

(例2) フクダ電子のレスキューWebや総合メディカルの調剤薬局網等のリソースを活用した災害時等の地域連携

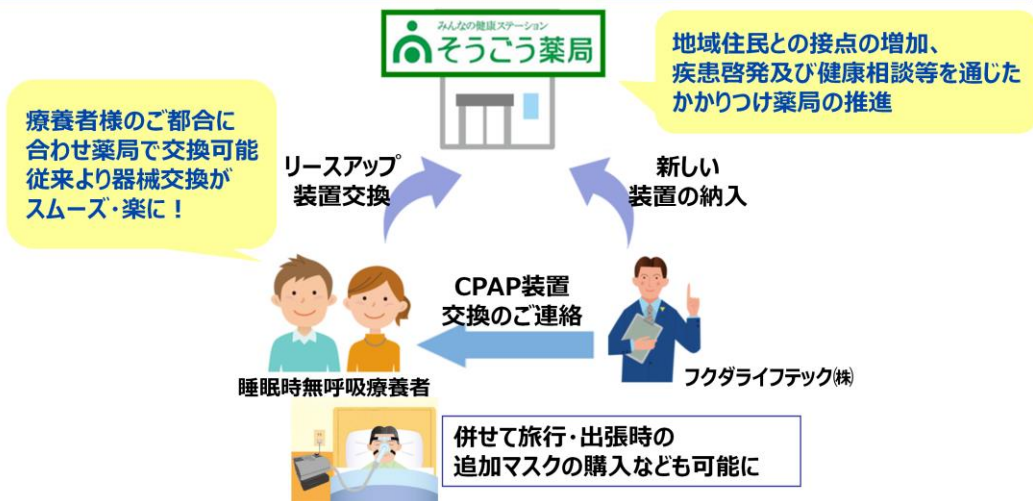
総合メディカル社との事業提携の主な内容は、

1. 在宅医療分野における協業
  2. 在宅医療及び薬局における医療ICT分野の協業
- の2点です。

在宅医療分野における協業では、当社の睡眠時無呼吸症候群関連事業と総合メディカル社の薬局事業との連携をはかり、調剤薬局でのSAS治療機器の交換・受取サービスの提供を開始致します。

また、在宅医療及び薬局における医療ICT分野の協業では、当社の医療ICTを活用した地域医療連携支援の他、当社の災害時業務支援システム フクダレスキューWebや総合メディカルの調剤薬局網等のリソースを活用した災害時等の地域連携を検討しています。

## 調剤薬局でSAS治療機器の交換・受取サービスを提供



## 在宅医療、地域医療を支える協業の実現へ

22

在宅分野における具体的な協業としては、調剤薬局でSAS治療機器の交換・受取サービスの提供を検討している他、旅行・出張時等に使用する追加マスクの購入などにも対応する予定です。

より地域密着を目指したサービス網の充実

フクダ電子/ライフテック

全国**203カ所**

2018年3月現在



フクダコーリン

全国**23カ所**

全国合計  
**226カ所**



総合メディカル 調剤薬局  
全国**680店舗以上**と連携



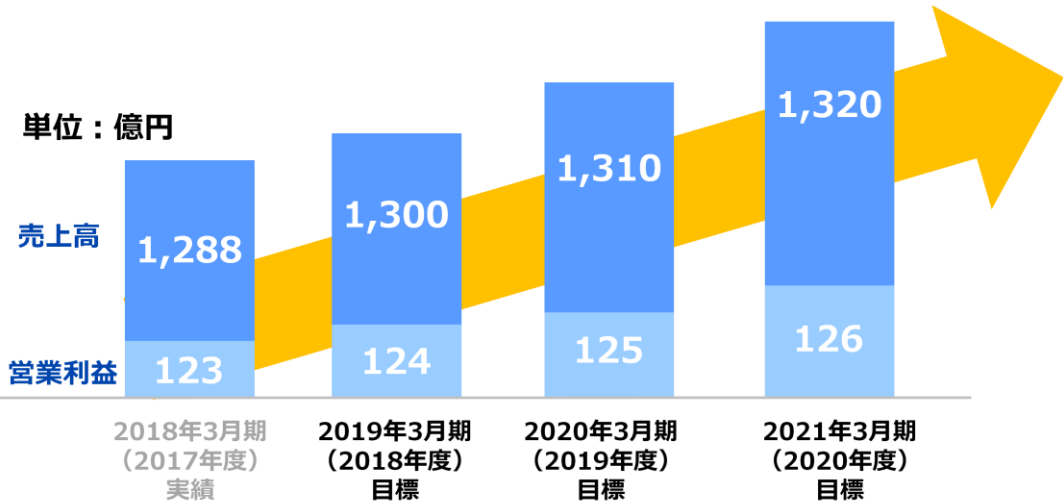
業界最多規模の国内拠点数

フクダグループの強みの一つが、フクダ電子およびフクダライフテックの拠点203カ所に、一昨年度よりフクダコーリンの23カ所が加わった、全国226カ所の、業界最多規模の国内拠点数です。

今回の総合メディカル社との提携により、全国の調剤薬局680店舗との連携も可能となり、より地域密着を目指したサービス網の充実を目指して参ります。



経営環境の変化に左右されない持続的成長を目指す



中期業績目標となります。

診療報酬の改定や消費税率引き上げなど経営環境の変化が想定されておりますが、そのような影響があっても変化に左右されない持続的成長を目指した目標を掲げております。

2019年3月期（2018年度）

売上高1,300億円、営業利益124億円

2020年3月期（2019年度）

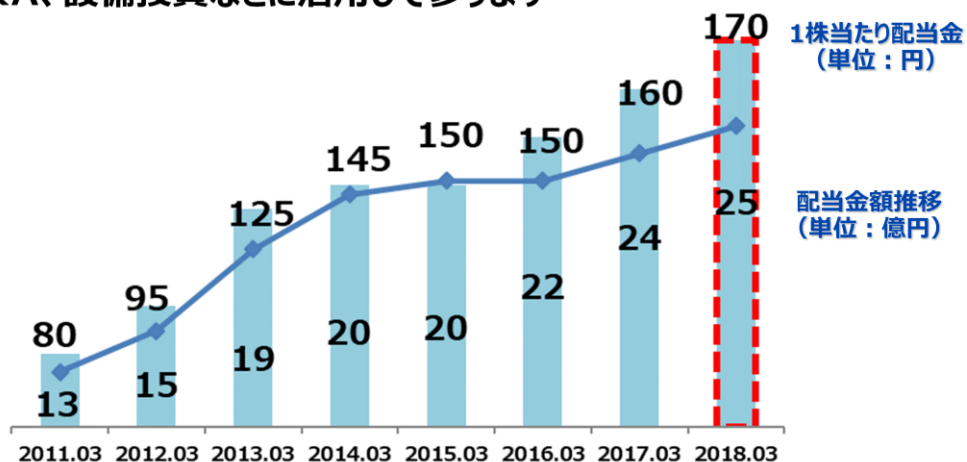
売上高1,310億円、営業利益125億円

2021年3月期（2020年度）

売上高1,320億円、営業利益126億円

## 株主還元方針

配当性向を重視し、積極的、継続的な利益還元を実施  
連結当期純利益を基準に配当性向30%を目標とします  
また、残りの内部留保については、新たな事業に向けた戦略投資費用、  
M&A、設備投資などに活用して参ります



25

株主還元方針といたしましては、配当性向を重視し積極的、継続的な利益還元を行うことを基本方針としております。

連結配当性向は30%を目標としており、利益の増加などに伴い毎年配当金は増額となっております。

また、残りの内部留保については、新たな事業に向けた戦略投資費用、M&A、設備投資などに活用して参ります。

2018年3月期の期末配当金は、1株当たり50円の普通配当に加え40円の特別配当を予定しておりましたが、通期の売上、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が前回公表した予測数値を上回ったことから、普通配当を10円増配した60円に、特別配当を40円、さらに過去最高益達成記念配当として5円を加え、合計105円としております。年間配当金は170円、配当金額は25億円を予定しております。

## 会社概要

2018年3月末現在

|      |  |
|------|--|
| 社名   | フクダ電子株式会社 FUKUDA DENSHI CO., LTD.                  |
| 本社   | 東京都文京区本郷三丁目39番4号                                   |
| 代表者  | 代表取締役会長 福田 孝太郎<br>代表取締役社長 白井 大治郎                   |
| 設立   | 1948年7月6日（昭和23年）                                   |
| 資本金  | 46億2,160万円（授權株式数 7,800万株）                          |
| 事業内容 | 医用電子機器の開発・製造・販売および輸出入                              |
| 従業員数 | 連結：3,736名（内 嘱託・パート 604名）<br>単体：755名（内 嘱託・パート 105名） |
| 株式   | 東京証券取引所 JASDAQ上場（証券コード 6960）                       |

## コーポレートガバナンスへの取り組み

**基本方針** 当社は、日々変化する経営環境を的確に把握し対応するとともに、継続的な企業価値の向上、健全で透明性の高い効率的な経営を実現する上で、コーポレート・ガバナンス（企業統治）は経営上最も重要な課題のひとつと位置付けております。

経営の意思決定や監督と業務執行の分離を図ることで、迅速かつ効率的な経営を実現し、戦略性と機動性に富んだ経営活動を行うことを基本方針としております。

「社会的使命に徹し、ME機器の開発を通じて、医学の進歩に寄与する。」を理念に掲げ、「CSR（企業の社会的責任）」への取り組み、各ステークホルダーとの信頼関係を構築し、企業価値の向上に努めていきたいと考えております。

【お断り】

この資料に記載されております業績予想数値は、当社および当社グループの事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を及ぼす要因について、現時点で入手可能な情報に基づいての見通しであり将来に亘る部分については、皆様の投資のご参考に資するために、ご提供をさせて頂くものです。

同数値については市況、競争状況、新製品および商品の投入状況など多くの不確実な要因の影響を受け予想と異なる結果になることが有るため、保証をお約束するものではありません。

この資料に関するお問合せは、下記にお願い致します

経営企画部：鈴木・吉田

TEL：03-5684-1558 FAX：03-5684-1577

email：info@fukuda.co.jp

## フクダ電子株式会社

〒113-8483 東京都文京区本郷三丁目39番4号

2018年5月 決算説明会資料 証券コード：6960 Copyright 2018 Fukuda Denshi Co., Ltd. All right reserved